

様式第 10

循環型社会形成推進地域計画改善計画書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
神奈川県湘南東地域	藤沢市、茅ヶ崎市、寒川町	平成 29 年～令和 3 年度	平成 29 年～令和 3 年度

1 目標の達成状況

(ごみ処理)

指 標	現 状 (平成27年度)	目 標 (令和4年度) A	実 績 (令和4年度) B	実績 /目標
排出量	事業系 総排出量 1 事業所当たりの排出量 生活系 総排出量 1 人当たりの排出量 合 計 事業系生活系総排出量合計	143.8kg/人	141.9kg/人 (-1.3%)	154.3kg/人 (7.3%) -561.5%
再生利用量	直接資源化量 総資源化量	65,829t (29.3%)	67,549t (30.4%)	63,765t (31.0%) 154.5%
エネルギー回収量	エネルギー回収量 (年間の発電電力量)			
最終処分量	埋立最終処分量			

※目標未達成の指標のみを記載。

(生活排水処理)

指 標	現 状 (平成27年度)	目 標 (令和4年度) A	実 績 (令和4年度) B	実績 /目標
総人口	人	人	人	—
公共下水道	汚水衛生処理人口 汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	人 %	人 %	人 % %
集落排水施設等	汚水衛生処理人口 汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	人 %	人 %	人 % %
合併処理浄化槽等	汚水衛生処理人口 汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	11,520 人 1.6%	11,979 人 1.7%	10,393 人 1.4% -245.5% -200.0%
未処理人口	汚水衛生未処理人口	32,511 人	19,029 人	29,965 人 18.9%

※目標未達成の指標のみを記載。

2 目標が達成できなかった要因

(ごみ処理)

○生活系 1人当たりの排出量

1人当たりの排出量については、計画策定時に計算の錯誤（本来、生活系ごみの総排出量から生活系ごみの資源ごみ量を減するところ、誤って事業系ごみの総排出量を減している）があった為、目標未達成となっているが、正しい数値で計算すると、目標達成となります。

	現状 (平成27年度)	目標 (令和4年度)	実績 (令和4年度)	実績/目標
誤	143.8 kg/人	141.9 kg/人 (-1.3%)	154.3 kg/人 (7.3%)	-561.5%
正	177.1 kg/人	171.9 kg/人 (-2.9%)	154.3 kg/人 (-12.9%)	444.8%

○総資源化量

総資源化量としては未達成とはなりましたが、企業等において容器包装類等に使用されるプラスチック自体が削減される傾向や店頭回収等の行政が把握できない民間ルートの拡大など資源循環をとりまく状況が加速化していることを踏まえると民間ルートを含めた湘南東地域全体の資源化量としては概ね達成できていると考えられます。

(生活排水処理)

○合併処理浄化槽等、未処理人口

合併処理浄化槽等、未処理人口については、計画時の想定よりも単独浄化槽からの転換が進まなかったものと考えられます。

3 目標達成に向けた方策

目標達成年度 令和9年度まで

(ごみ処理)

○総資源化量

分別収集品目の追加検討や焼却灰の資源化を推進していくとともに、民間事業者とも連携した地域の資源循環の体制を推進していきます。

(生活排水処理)

○合併処理浄化槽等、未処理人口

引き続き、公共下水道への接続率の増加や単独浄化槽から合併処理浄化槽への転換など普及促進に努めていきます。

(都道府県知事の所見)

(ごみ処理)

総資源化量については目標未達成となっているが、これは、容器包装類等に使用されるプラスチックの削減等が推進されていることや、店頭回収等の取組みが進んでいることによる影響が大きいと考えられる。改善に向けて、分別収集の見直し等、資源化量の増加に向けた施策の強化が必要であるとする。

今後も、ごみの排出抑制や資源化のほか、廃棄物処理施設の整備を着実に進め、地域全体で循環型社会の形成に向けて更なる施策の推進を図りたい。

(生活排水処理)

目標には達していないが、総人口の増加がある中で公共下水道の汚水衛生処理人口は増加し、未処理人口の総数も減少していることから、着実に生活排水処理の推進がされているとする。

今後も神奈川県生活排水処理施設整備構想を踏まえて、地域全体における生活排水処理率の更なる向上を目標として、積極的に浄化槽等の設置を図りたい。